

バビロンの捕囚から帰還した後の、良き地での生活の極めて重要な面

聖書：歴代上 4:10、9:1、16:8-12、16-18、29:10-20、

歴代下 20:15-22、36:22-23

- I. イスラエルの民の歴史は、予表であり、新約の信者たちを予表しており、それゆえ召会を予表しています——歴代下 36:22-23、I コリント 10:6、11。
- II. ユダは忠信でなかったために、バビロンに捕囚として連れ去られました。こういうわけで、捕囚から帰還した者たちは、神に対して忠信でなければなりません——歴代上 9:1、I コリント 4:1-2、7:25、II テモテ 2:13、啓 17:14：
- A. 神は、彼のエコノミーを完成することにおいて、またわたしたちを彼のエコノミーの中へと導くことにおいて信実です——哀 3:23 後半。
- B. 信実な神として、神はご自身を否むことができません。神はご自分の存在を否むことができず、ご自分の存在に背くことができません——II テモテ 2:13。
- C. 神が彼の信実という属性をもってわたしたちの中へと造り込まれるとき、神はわたしたちとなり、わたしたちは神の信実という属性において神となります——I コリント 7:25、II テモテ 2:13：
1. 神がご自分の存在を否むことができないように、神で構成されたわたしたちは、自分の存在を否むことができません——参照、エペソ 3:16-17。
 2. このようにして、わたしたちは神の奥義の執事として、忠信になることができ、また忠信になります——I コリント 4:1-2。
 3. わたしたちは信実な神で構成されているので、神に対して忠信であるに違いありません。わたしたちの存在、わたしたちの構成は、わたしたちが不忠信になることを許しません。
- D. わたしたちが忠信であり、信頼できるというのは、主がわたしたちに割り当てた執事職を果たすことを意味します——I コリント 4:1-2、7:25、I テモテ 1:12。
- E. 主はハルマゲドンの戦いのために来るとき、主の主、王の王であり、彼と共にいる勝利者たちは、「召され、選ばれた、忠信な者たち」です——啓 17:14、19:11-21。
- III. バビロンの捕囚から良き地に帰還した人はみな、エホバを知り、エホバに従い、エホバを礼拝するように命じられました——歴代上 16:8-14：
- A. 「神」は、神の力、および神と被造物の関係を暗示しています。「エホバ・神」

は、神が人と関係を持つことを示しています。

- B. エホバ・神は、力強い方であるだけでなく、人に近づく方でもあります——創 2:4, 8, 15-16, 18-19, 21-22。
- C. 「エホバ」は、「わたしは『わたしはある』である」を意味します。これは、エホバが自ら存在し永遠に存在する永遠の方であり、昔おられ、今おられ、未来永遠におられる方であることを示しています——出 3:14. 啓 1:4。
- D. エホバだけがある方です——ヘブル 11:6：
1. この方だけが存在する方であり、大いなる「ある」です。「ある」という動詞は、神だけに適用することができるのであって、わたしたちには適用することができません。
 2. 神は宇宙的な「ある」であり、真に存在する方です。神だけが「わたしはある」であり、彼だけが存在する方です。
- E. 「エホバ」は、存在と約束の成就のための神の御名です——創 17:1. 28:3. 35:11. 出 3:14. 6:6-8。
- F. エホバは永遠に存在するので、また彼は「ある」という動詞の実際であるので、ご自身が語ったことをすべて成就します——ヨハネ 8:28-29。
- G. 今日、主の回復において、わたしたちは成就の段階にいます。わたしたちは神をエホバ、すなわち、大いなる「わたしはある」として経験しています——出 3:14-16. ヨハネ 8:24, 28。
- IV. イスラエルの子たちが良き地に帰還したことは、クリスチャンが分裂から召会の立場に、すなわち一の立場に戻ったことを表徴します——歴代下 36:22-23. 参照、申 12:1-32：
- A. 召会の地方の立場は、基本的に、諸地方召会で実行されるキリストのからだの唯一の一です——エペソ 4:4. I コリント 1:2. 12:27。
- B. 新約における神聖な啓示によれば、召会の立場は、三つの極めて重要な要素から構成されています：
1. 召会の立場を構成する第一の要素は、キリストの宇宙的なからだの唯一の一です。この一は、「その霊の一」(エペソ 4:3)と呼ばれています。この一は、主がヨハネ第 17 章で祈った一です。
 2. 召会の立場の第二の要素は、地方召会が設立され存在する地方の唯一の立場です——啓 1:11. 使徒 14:23. テトス 1:5。
 3. 召会の立場の第三の要素は、一の霊の実際、すなわちその霊の実際であり、その霊は神聖な三一の生ける実際です——I ヨハネ 5:6. ヨハネ 16:13。

- C. 召会の立場は、内在的に命と関係があります——詩 133:1, 3. 36:8-9。
- V. 良き地に帰還したイスラエルの子たちは、神がアブラハムと結んだ契約を覚えるようにと告げられました——歴代上 16:15-18. 創 15:7-21 :
- A. アブラハムは、子孫に関する神の約束について神を信じましたが、良き地の約束については神を信じる信仰に欠けていました——創 15:6-8。
- B. アブラハムの信仰を強めるために、神は強いられて、アブラハムと契約を結ぶことによって、彼にご自身の約束を確証しました——創 15:9-21 :
1. 神がアブラハムと結んだ契約は、約束の契約でした。それは、神の恵みの力を通して成就されます——ヨハネ 1:14, 17。
 2. 新約は、この契約の継続です——ガラテヤ 3:17. 4:22-26。
- C. 神は、十字架につけられ復活したキリストを通して、アブラハムと契約を結びました——創 15:9. ローマ 6:5-6, 9 :
1. 三種類のほふられた家畜は、わたしたちのために十字架につけられた人性におけるキリストを表徴し、二羽の生きた鳥は、生ける、復活した方である、神性におけるキリストを表徴します——創 15:9. ヨハネ 11:25. 啓 1:18。
 2. 雌牛は平安のささげ物のためであり、雌やぎは罪のためのささげ物のためであり、雄羊は全焼のささげ物のためでした——創 15:9. レビ 3:1. 4:28. 5:6. 1:10。
 3. 予表において、山ばとは苦難の生活を表徴し、家ばとのひなは信じる生活、信仰の生活を表徴します。これらは、地上での主の生活の二つの特徴です——創 15:9。
 4. 二は証しの数ですから、二羽の生きた鳥は、わたしたちの中で、わたしたちのために生きる方としてのキリストの証しを担います——創 15:9. ヨハネ 14:19-20. ガラテヤ 2:20。
- VI. わたしたちはキリストにある信者として、神のみこころを発表する祈りをする必要があります、わたしたちの個人的な靈的境界が拡張する願いを持つ必要があります——歴代上 29:10-20. 4:10 :
- A. 宇宙には三つの意志、すなわち神の意志、サタンの意志、人の意志があります。神は、人の意志が神に結合し、人が神と一になることを願っています。それによって、人は祈りの中で神のみこころを発表し、神のみこころに呼応して、神を大いに喜ばせます——マタイ 6:10. 7:21 :
1. 祈りの真の意義は、四つの段階から成っています：
 - a. 神は、彼のみこころにしたがって事を行なうことを意図しています

——6:10。

b. 神は、その霊を通して、わたしたちに彼のみこころを啓示して、わたしたちに彼のみこころを知らせます。

c. わたしたちは彼のみこころに呼応し、彼に祈り返します——ヨハネ 15:7。

d. 神は、彼のみこころにしたがって、彼のみわざを達成します——啓 4:11。

2. 神によって開始され、神が開始した事に呼応する祈りだけに、霊的な価値があります。わたしたちはこのような祈りを学ばなければなりません——エペソ 6:18. Iヨハネ 5:14-16 前半。

B. ヤベツは、自分の境界を拡張してくださるよう神を呼び求めました。ヤベツの祈りは良き地の境界の拡張についてであり、これは良き地の実際であるキリストを獲得し、キリストを享受することの境界の拡大を表徴します——歴代上 4:10. 参照、ピリピ 3:8-14。

VII. 歴代志下第 20 章 15 節から 22 節で、わたしたちは主を賛美することによって、霊的戦いに従事することを学ぶことができます：

A. 歴代志下第 20 章 15 節で、エホバはヨシャパテ王に、「このおびただしい大軍のゆえに恐れてはならない、おののいてはならない。この戦いはあなたがたのものではなく、神のものである」と言い、17 節前半で、「あなたがたがこの戦いで戦うのではない」と言いました：

1. 奉仕者の多くは、極めて大きな声でエホバ・イスラエルの神を賛美しました——歴代下 20:19。

2. 彼らが歌って叫び、賛美し始めたとき、エホバは伏兵を設けて、敵を襲わせたので、敵は討たれました——22 節。

B. 賛美は神の子供たちによってなされる最高の働きです——詩 119:164. ヘブル 13:15：

1. 聖徒の霊的な命の最高の表現は、神に対する賛美です——詩 146:2. ヘブル 13:15. 啓 5:9-13. 19:1-6：

a. クリスマン生活は、賛美を通して引き上げられます——使徒 16:19-34。

b. 賛美することは、あらゆるものを超越して主に触れることです——啓 14:1-3. 15:2-4。

2. 霊的な勝利は戦いにかかっているのではなく、賛美にかかっています——歴代下 20:20-22。

- C. 召会生活とわたしたちの個人の生活の中で、わたしたちは究極の賛美を神にささげる必要があります——詩 22:22 後半、ヘブル 2:12 後半。
- D. わたしたちは経験し享受したキリストを通して、絶えず賛美のいけにえを神にささげる必要があります——13:15。
- E. 「主、わが神よ、わたしは心を尽くしてあなたを賛美し、永遠にあなたの御名に栄光を帰します」——詩 86:12。

©2022 Living Stream Ministry